

**リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業  
第72回会議参加者(8名)アンケート 集計結果**

**1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)**

JSPSのHP	5	
JSPSのメールマガジン(JSPS Monthly)	3	
JSPSからのメールでの案内	2	
所属機関からの案内	3	
所属学会のHP、メールマガジン	0	
過去のリンダウ会議参加者からの案内	0	
日本人研究者からの案内	0	
外国人研究者からの案内	0	
その他	0	

**2-1. リンダウ・ノーベル賞受賞者会への参加は有益でしたか。**

はい	8	
いいえ	0	

**2-2. 上記のとおり回答した理由した理由は何ですか。**

明らかに自分の今後のキャリアに影響してくると思います。ノーベル賞受賞者のサイエンスへの向き合い方や、世界中から参加した若手研究者がそれぞれの分野で真剣に研究に取り組んでいる話を聞き、非常に刺激を受けました。

自分の研究分野の研究会に参加する機会はたくさんあるが、このような分野横断的な会は他にはあまりない。研究テーマの多様性や分野横断的な共同研究の重要性に気が付く良い機会を得られた。

他の種類の学会では得られないため。

ノーベル賞受賞者との交流、若手研究者とのネットワーク形成のどちらについても、想像していた以上の成果が得られました。

参加者のモチベーションやディスカッションの水準が総じて高く、学術的な刺激を受けることができた。

日本人及び外国人参加者とは特に深く交流し、連絡先も交換し、今後の共同研究の可能性を広げることができた。

ノーベル賞受賞者と直接話す機会を持てたこと。

多くの同世代の研究者と、時差なく対面で活気のある議論ができたこと。

ノーベル賞受賞者や若手研究者との交流はリンダウ・ノーベル賞受賞者会議でしか経験できない貴重かつ刺激的な経験だったため。

**3. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)**

学術的な視野が広がった。	7	
通常国際学会では得られないような助言を受けることができた。	8	
国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。	4	
将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。	5	
共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。	1	
自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。	0	
webやメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。	7	

4. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

はい	8	
いいえ	0	

5-1. 本事業への申請を検討するにあたり、何か懸念事項がありましたか。(複数回答可)

1週間という会期が長い	2	
博士論文の提出予定年度にあたる	0	
指導教員や直属の上司が本会議参加に協力的でない	1	
ラボメイトや同僚が本会議参加に協力的でない	0	
英語能力に自信がない	2	
研究業績に自信がない	0	
本会議の知名度が低い	3	
採用されるまでの競争率が高そう	3	
採用結果が判明する時期が遅い	2	
その他	0	

5-2. 上記の懸念事項をどのように乗り越えて申請を決意したかご記入ください。

面白そうな会議だと思ったので、絶対に乗り越えるしかない壁だと思いトライしました。

研究室のボスからの後押し

上司と交渉しました。

会期が長いというのが一番の懸念事項でしたが、過去に参加された方々の参加報告書を読んでそれ以上に得られるものは多いだろうと確信して申請しました。

大学院留学を支援する財団の奨学生の先輩が過去に本会議に参加していたことを過去の参加者の報告書に目を通してのなかで知り、連絡を取ってみたところ間違いなく参加したほうが良いと言われたため。

採択されるかはわからないので、とりあえず申請して、採択されたときに考えることにした。

6. 日本人参加者同士の交流の機会は持てましたか。

はい	7	
いいえ	0	

※1名無回答